

シンポジウム：「原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方について  
～WHO 国際がん研究機関の報告より～」開催案内

平成 31 年 1 月 8 日  
環境省大臣官房環境保健部  
放射線健康管理担当参事官室

世界保健機関（WHO）の専門機関である国際がん研究機関（IARC）は、平成 29 年度に「原子力事故後の甲状腺モニタリングに関する国際専門家グループ（以下、「国際専門家グループ」）」を立ち上げ、平成 30 年 9 月末に、今後の原子力事故時における甲状腺健康モニタリングに関する報告書を公表しました。今回、国際専門家グループ座長であるヨアキム・シュッツ氏が来日し、原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方についてシンポジウムを開催いたします。今後の原子力防災における初動から中長期的な甲状腺健康モニタリングの考え方について参考になると思われまますので、関係部署への周知へご配慮をお願いいたします。

1. 日 付 平成 31 年 3 月 7 日（木） 13：30～16：40
2. 場 所 東京国立近代美術館地下 1 階講堂（東京都千代田区北の丸公園 3 番 1 号）
3. 対象者 原子力施設立地道府県等自治体の放射線健康管理・原子力防災・原子力災害医療の担当者、高度被ばく医療支援センター並びに原子力災害拠点病院に指定されている医療機関の医師等医療従事者、放射線医学等に関わる研究者等専門家

4. プログラム

13：30～14：45 第 1 部：基調講演

ヨアキム・シュッツ（IARC 環境・放射線部門 部門長）

「原子力事故後の甲状腺健康モニタリング：IARC 専門家グループによる提言」

14：45～14：55 休憩

14：55～16：35 第 2 部：パネルディスカッション

テーマ「原子力事故後の甲状腺健康モニタリングの在り方について」

コーディネーター：山下 俊一（内閣官房副長官補室 原子力災害専門家グループ）

パネリスト：ヨアキム・シュッツ

セルゲイ・シンカレフ（ブルナシヤン連邦医学生物物理学センター

産業放射線衛生部 部長）

貴田岡 正史（イムス三芳総合病院 内分泌・代謝センター長）

長谷川 有史（福島県立医科大学 原子力災害医療・総合支援センター  
センター長）

講演 1：セルゲイ・シンカレフ

「原子力事故初期対応における甲状腺・内部被ばく線量評価方法」

講演 2：貴田岡 正史

「日本における甲状腺がんの診療について～日本甲状腺学会専門医の立場から～」

講演 3：長谷川 有史

「原子力事故後の災害医療対応について～福島の実験から～」

16：35～16：40 閉会

5. 受講料 無料

6. 申込方法

別紙の申込書に必要事項をご記入の上、平成 31 年 2 月 21 日(木)までに、下記申込先へ E-mail または FAX でお申込みください。

なお、参加申込数が定員を超過した際には、各機関の人数を調整させていただく場合がありますことをあらかじめご了承ください。

【申込先】平成 30 年度環境省委託事業

国際専門家グループにおける検討支援委託業務事務局

公益財団法人 原子力安全研究協会 担当：国際研究部 大津

メールアドレス [otsu@nsra.or.jp](mailto:otsu@nsra.or.jp)

FAX 番号 03-5470-1991

電話番号 03-5470-1983

7. その他

- ・当日は日英同時通訳で実施します。
- ・会場内やエントランスを含む当該施設内での飲食はできません。近隣の飲食店や施設隣接レストラン、講堂ロビーの冷水機をご利用ください。
- ・当該施設は禁煙です。指定の喫煙所以外での喫煙はできません。
- ・当日は公共交通機関をご利用の上お越しください。
- ・当該施設には駐車場がありませんので、お車でお越しの際は近隣の駐車場をご利用ください。